

尿沈渣中のコンタミネーション2成分の考察

◎山下 美香¹⁾、清水 健太¹⁾、荒木 裕美¹⁾、徳永 裕介¹⁾、米田 登志男¹⁾
広島赤十字・原爆病院¹⁾

【はじめに】尿沈渣検査では正確な結果を報告するために採尿方法に関する指導を患者にすることが望ましいとされる。特に女性の場合、外陰部からの成分の混入を避けるため、清拭することを含めた採尿指導が必要とされるが、実施できている施設は多くないと考える。また近年、尿路変更術後に使用される皮膚保護剤など新たなコンタミネーションも増えている。今回、これから増えてくるであろうと思われるコンタミネーションについて考察した。

【外部からのコンタミネーション】超高齢化社会に突入した日本では、寝たきり状態で介護が必要な人も年々増えており、排尿コントロールが難しくなった高齢者介護の必需品である大人用おむつの使用率が増えている。このオムツが皮膚トラブルの原因となり、軟膏やクリームを使用している患者も少なくないと思われる。今回、そのような患者尿から結晶などに類似した成分を認めた。市販のクリームなどはカルテ記載もないことから検索に苦慮したが16種類の軟膏、クリームを精製水に溶きその沈渣から同様の成分を認めたことから同定に至った。

【内部からのコンタミネーション】精液尿 Spermaturia とは、その名の通り尿中に精子が混在している状態であり、そのほとんどが無症状のことが多い。しかし、男性不妊症の原因であることもあり単なるコンタミネーションで終わらない場合もあるため注意が必要である。今回、尿沈渣中に精子を認めた検体について背景に円形の細胞を多く認めた。この円形細胞は無染色では一見白血球のようにも見えたが、よく観察すると光沢や核の形状などから白血球とは異なる細胞と思われた。そこでメイグリュンワルドギムザ染色を実施し白血球でないことを確認した。形態や背景から標本上の細胞は精子細胞ではないかと考えた。

【まとめ】これから高齢者が増加する中、オムツでの皮膚トラブルや、前立腺肥大症の患者が増えてくると思われる。治療によって尿沈渣中に不明な成分が出現してくることもあるため患者背景や沈渣成分のさらなる観察が必要となってくると思われる。

連絡先：082-241-3111（2501）